

朝刊 2025/06/22(日)

11 スポーツ

2025年(令和7年) 6月22日 日曜日

沖縄タイムス

当山、2年ぶり7度目V

小学生ハンド沖プラ杯

ハンドボールの第16回沖縄プラント工業杯争奪第43回県小学生大会兼第38回全国小学生大会県予選最終日は21日、県総合運動公園体育館で行われ、男子決勝は当山が南大東を18-17の接戦の末に破り、2年ぶり7度目の頂点に立った。

女子決勝は浦城が読谷を24-17で制し、3年ぶり8度目の栄冠をつかんだ。

男女優勝チームは7月の全国大会(京都)に出場する。

【男子】

▽準決勝 南大東 15-14 コラソンU12

当山 20-13 宮城

▽決勝 当山 18 (8-8) 17 南大東 (10-11)

【女子】

▽準決勝 浦城 23-13 サウス

読谷 17-16 当山

▽決勝 浦城 24 (13-7) 17 読谷

日韓戦 男女敗れる

ハンドボールの日韓定期戦は21日、韓国の清州で行われ、日本は男子が25-27で、女子は25-29でともに敗れた。

粘る南大東に競り勝つ

ハイライト

当山はキャプテンの大城凌基が5得点と活躍した。南大東に1点差に詰め寄られながらも、ぎりぎりで逃げ切って頂点をつかんだ。

苦しい試合だった。速攻から得点したが、DF陣の間に割って攻め込む南大東を突き放せなかった。

8-6で入った後半、大城は「点差を詰められたら負けるかもしれない。主将として決める」と気合。GKを観察し、ゴールの近めや遠目と変化をつけたシュートを放った。3連続得点し、13-9と引き離した。

だが、点差が広がるとチームの集中力が落ちて声が出なくなった。高原亘次郎は「相手が点を入れ始めてきて、やばいと思った」と残り1分、決勝点となるチーム18点目を挙げた。「みんなの力がなかったら、僕も決められなかった」と勝利を喜んだ。

接戦の多い当山は、終盤に声が戻って勝つことが多いという。3得点の久根次彦人は「全国大会では自分から声を出して、点差を詰められないようにしたい」と健闘を誓った。(又吉健次)



男子決勝 当山—南大東 前半、当山の大城凌基が6点目のシュートを決める—県総合運動公園体育館(小宮健撮影)



女子決勝 浦城—読谷 前半、浦城の中村麻咲が11点目のシュートを決める



女子優勝の浦城



男子優勝の当山

浦城 多彩な攻撃実る 女子8度目V

浦城は多彩な攻撃で読谷を圧倒し、24-17で快勝して頂点をつかんだ。両チーム最高の12得点だった久手堅千海は「全国大会に行けるから、とてもうれしい」と声を弾ませた。

味方をブラインドにしてシュートを打ち、人とボールが激しく動くパスで相手をかく

乱した。前半中盤から地力を発揮して11-7と突き放すと、後半も勢いそのままに13得点し、ゲームを支配した。

もう一つの持ち味が堅守だ。ゴール前で横一線に並んで相手の速攻を封じると、スペースをつぶしてロングやサイドシュートを放つように仕向けた。GK三島夕奈は「ボ

ールをよく見て動き、味方に指示を出した」と手応えを語った。

実はぎりぎりの選手7人での出場だったため交代メンバーがおらず、全員で熱中症に気をつけた。謝花歩美監督は「よく7人で頑張り、走り続けてくれた」とねぎらった。(又吉健次)